



新人編集部員の



コース管理体験



in セブンハンドレッドC

2月8〜12日にセブンハンドレッドクラブ（18H・栃木県さくら市）にて、特別に冬場のコース管理を体験した。前号ではあらましを報告したが、今号は5日間の体験の詳細を紹介したい。

1日目

コース管理の知識が全くない新人編集部員の私は、最寄り駅近くのビジネスホテルに前泊し、現地で初日の朝を迎えた。朝6時半に同クラブのコース課スタッフの方が車で迎えに来て下さり、車に揺られること10分。雄大に広がる美しいゴルフ場が私を歓迎してくれた。

到着後、グリーンキーパーに挨拶を済ませ、7時からの朝礼にて自己紹介をさせて頂いた。少し緊張したが、コース課のスタッフの方々は心の温かい方ばかりで直ぐに打ち解けることができた。

朝礼が終わった後は、グリーンキーパーにコース課の機械やゴルフ場のメンテナンス作業を見学させていただいた。グリーンキーパーがスタッフに機械メンテナンス方法を細かく説明しながら、刃の

機械メンテナンスの見学。グリーンキーパーがスタッフに丁寧にアドバイスを



土を均しながら協力して芝張りをコース課スタッフ

調整をミリ単位で調節を行っていた。面合わせと角合わせのバランスのとり方はシビアであるらしく、グリーンなどを均一に刈る為には大切な仕事だと教わった。

メンテナンスの見学後は、複数のコース課スタッフと一緒に芝張りに向かった。長方形に切り取られた芝は重さ・サイズ共に均一では無いため、隙間が無いように考えながら一つ一つ丁寧に張る作業だ。休憩時間を挟みながらも、時間が経過す

るにつれて体力と握力が徐々に奪われていった。それでもスタッフと協力して作業をすることは楽しかった。

2日目

1日目と同じく朝7時から事務所にて朝礼。朝の見回りスタッフのコース状況の報告を基に、グリーンキーパーから朝の作業内容が告げられる。

朝礼後、午前中はサブグリーンキーパーに同行し、エンジンブロワーを使ったコースのティとグリーンの掃除を行った。



グリーン掃除。ブロワーで芝カスなどをグリーン外に飛ばす

エンジンブロワーの取扱いは注意したい。手元のレバーで風力パワーを全開にすると作業は捗るが、その分右半身に負荷がかかるのだ。私はサブキーパーやスタッフの指示やアドバイ

スなどを参考 デイボット直し
に、協力して
仕事を進めた。

コース清掃
後は、芝張り
である。1日
目は全く身体
が動かなくな
ったが、芝の重
さに慣れたの
か、この日の



動きは軽快だった。

芝張り作業を終えて、スタッフ
と一緒にカートで移動しながらコ
ースの見回り・ティのゴミ拾いや
グリーンフォークを使ってのグリ
ーンのデイボット直しを中心に行
った。

その日にインコース担当になっ
た私は、18番ホールで初めてカッ
プ切りに挑戦したが、切り方が難
しく納得のいく作業ができなかつ
たことが心残りだ。

各スタッフが意識を持って仕事
に取り組み、作業一つ一つで判断
に迷った時はお互いに意見交換し
コミュニケーションを取りながら
進める姿勢が印象的だった。

3日目

朝礼後、作業に当たるスタッフ

は全員ヘルメットを着用し、木の
伐採作業を開始した。伐採対象の
木をサブキーパーが剪定して伐採
他のスタッフは枝や葉を軽トララ
ックに運ぶ作業を行う。細かい枝や
葉は手や熊手を使ってかき集め、
仕上げはエンジンブロワーで綺麗
に整えた。サブキーパーの話では
チェーンソーの使用は身体にくる
とのことであった。

その後は芝張りを行った。芝張
りは必ず土を綺麗に均してから行
う。通常は芝を1〜2枚ずつ運ぶ
が、一部の屈強なスタッフは4〜



伐採現場。危険を伴う
作業で資格を持ったス
タッフの指示に従い作
業

5枚ずつ運べ
るのだ。私も
試してみたが、
私は3〜4枚
ずつ運ぶこと
が限界であつ
た。体に負担
をかけないよ
う大半のスタ
ッフと同じく
2枚ずつ運ん
でいった。
昼休憩を挟
み、芝張り後
はティ掃除及

カップ切りはコースの
状態を良好に保つため
にある



を教わった。

この日もスタッフのコース管理
に対するこだわりと高い技術に圧
倒された。作業後に、コース課ス
タッフから「グリーンは大切な商
品」であることを教わったので、
4日目以降はなるべく芝の質を下
げずに芝を活かせるような作業を
意識していきたいと思つた。

4日目

コース体験も後半に入り、午前
中はブロワーや熊手を使いながら
コースの清掃に取り組んだ。霜が
かかっているグリーンにブラシを
かけ、ブロワーで芝カスをグリー
ン外に出した後は、池や池の周り

池の掃除は手作業で行
う



に落ちていた
松の葉を取り
除く作業を行
った。
池は水が張
っていていた
のだが、こん
な状況でも同
クラブのスタ
ッフは顔色一
つ変えず、黙
々と池の掃除
を始めた。
「僕はしっか

りやらないと気が済まないんです
よね」

と私に語りながら熊手や手を使つ
て松の葉を綺麗に取っていく。仕
上げはブロワーを使い、スタッフ
と力を合わせて無事に池の周りを
綺麗にすることができた。

その後、特別な許可を得てキー
パーからクラブハウスの案内と、
コース管理機材の説明を受けるこ
とができた。

少し疲れを感じていた私だが、
レストランの厨房スタッフ・ウエ
イターそれぞれのスピード感のあ
る動きを含め、クラブハウス内で
勤務するスタッフの姿に励まされ

た。機材の説明など、コース管理業務について丁寧に指導してくれた塙安男グリーンキーパー。明では、グリーンモアやロータリーモアを始め、目砂散布機・ドリルエアレーター・農薬散布機械など基礎知識を中心に説明を受けた。午後は芝張りとグリーンへのディボット直しに取り組んだ。この日も3日目に指導してくれたスタッフが丁寧にコース管理業務を教えてくれた。この日はグリーンでの禁止事

通気性と透水性を上げる「ドリルエアレーター」



機材の説明など、コース管理業務について丁寧に指導してくれた塙安男グリーンキーパー

項や新しいディボットの見分け方など、書物では得られないコース管理についての貴重な情報を知ることができた。

最終日

最終日は、自ら志願してサブキーパーと一緒に朝礼前からコースの見回りを行った。朝の見回りの清掃は軽めに行うが、大きな枝などが落ちていることがあるため、全体を見ながら見回りを進めた。朝礼後はコース内のラフやフェアウェイをエンジンブロワーで清掃し、斜面のラフ刈りやフェアウ

早朝のコース見回りをする関茂美サブグリーンキーパー



ロータリーモアでのラフ刈り作業。冬場の機械操作は冷たい風が吹くため、体温温度がかなり下がるという



カップ切りはゴルフファースコアを左右する重要な作業であるため、グリーンの切り取りからピン位置の微調整に

休憩を挟みながら芝張りをを行い、芝張り後はティの見回り、グリーンのカップ切り・ディボット直しに取り組んだ。例えば綺麗な状態のグリーンであつても、ゴルフ場に来て下さるゴルフアワーの方々に気持ちよくプレーしてもらうため、目を凝らして隅々までディボットなどを確認することが大事であるとスタッフは語っていた。



ティーマークの向きを確認

エイ刈りは機械で行った。清掃後、昼



ディボット・ディボット修復後（左）、バンカーの均す前・バンカーを均した後（右）

のプレーを支える素晴らしい仕事を体験出来ました」と伝えましたが、本当はその気持ちを通り越して言葉が出なかつたのだ。コース管理体験はあつという間に過ぎていった。貴重な体験をさせていだいた、同クラブの皆様

に改めて感謝の気持ちを伝えたい。この体験を活かして、コース管理の知識を少しずつ深めていきたいと思う。

至るまで正確に丁寧に進めていた。最終日もスタッフの仕事に対する熱い想いやこだわり、視野の広さが心に響いた。5日間の体験終了後、私はコース管理課スタッフに向けて感謝の気持ちを伝えた。挨拶では「ゴルフファ

セブンハンドレッドCコース課

